

# 週刊 タバコの正体

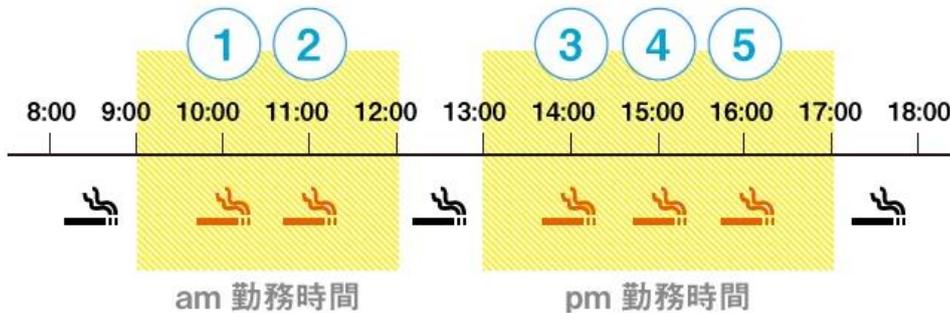
ニコチン依存症にかかってしまうと、周期的にタバコを吸ってニコチンを補給しなければならなくなります。来る日も来る日も、少々体調が悪くても、少々忙しくても、朝から晩まで何本かを吸い込まなければ生活できません。そのためには相当なタバコ代が必要で、そしてそのせいでガンなどの病気になる

とその治療費まで自分持ちだと言うことはすでに紹介しましたね。

じつは、さらにもうひとつ知っておかなければいけないことがあります。それは「タバコを吸うための時間」です。

ニコチン依存症の人は当然仕事中にもタバコが吸いたくなります。自分一人だけの職場では好きな時にその場で喫煙しても問題ないでしょう。でも通常は複数人と同じ職場なので、関係のない人の受動喫煙を防ぐため職場を離れ喫煙場所へ移動して喫煙しなければならないのが普通です。例えば、上図のように毎日勤務時間中に50分も「タバコを吸うための時間」が必要となる人もいますよね。

## 喫煙者が勤務中に離席すると



午前の勤務時間中に**2**本、午後の勤務時間中に**3**本、  
喫煙する人は、

離席 **5**回 × **10**分 = 合計 **50**分の職場離脱

※ 1回の喫煙時間が10分の場合

キャリア採用ラボ サイトから



この図を見て、どう感じますか。喫煙者には酷な言い方ですが、「毎日1時間近くもサボってるの？」って思われませんか。そしてもし、この例のような頻度で職場を離れている人がいたとしたら、「〇〇さんは、どこ？」「さあ、またタバコを吸いに行ってるんじゃない」なんて言う会話が頻繁に発生してそうですね。

いかがでしょう。こんな状況が日常茶飯事では、その人の仕事上の評価や信用に影響がでないでしょうか。現代は、当人の本来の能力とは関係なくとも「タバコを吸うための時間」が必要な人は不利な時代になっています。

そう考えると、やっぱりタバコを吸い始めるのは、もったいなく馬鹿げていませんか。

産業デザイン科 奥田 恭久